





# 城山神社祭礼 鹿野祭り 観覧ガイド

宵祭り 4/14(土) 本祭り 4/15(日)



上町・原田建丸氏(故)所蔵の「鹿野祭絵巻」より

## ～400年の歴史を誇る古式ゆかしい祭礼～

城山神社の例祭はもとは妙見祭といわれ、亀井氏が城中は春と秋の2回賑やかに行われていましたが、亀井氏の津和野移封後は中断しました。

しかし、藩政時代の後半になると経済文化も発展し、鹿野の住民による「町おこし」として妙見祭復興の気運が盛り上がり数度の願書提出の結果、ようやく、文化10年(1813)許可され鹿野祭りとして復活しました。以来、現代にいたるまで連綿と続けられています。

上の写真は、上町の原田建丸氏(故)が所蔵しておられた「鹿野祭絵巻」です。絵巻には鷹匠や三味線をはく者、裸で踊る者、馬などが描かれており、現在の祭りとは一風異なる昔の祭りを垣間見ることができます。



## ～鹿野を眼下に見下ろす 城山神社(しろやまじんじや)～

城山神社は、もとは加知弥(かちみ)神社の摂社で、古くから妙見大明神と称し鹿野の町民から崇敬されていました。素盞鳴尊(すさのおのみこと)を祀り、亀井氏が城中は城内鎮守として重く祀られていました。社殿は大きくありませんが、その構造・彫刻は精緻を極めています。



## 鹿野祭りの華 ～役面(やくめん)～

祭礼を取り仕切る7町内の若連中の頭「役面」は、鹿野祭りの華。役面は祭りの進行から紛争まで処理する権限をもっており、祭りは役面連中により取り仕切られています。

この役面連中の中で、祭りの幹事ともいえる年行司(ねんぎょうじ)を受けた町の役面は、年行司役面として祭りのクライマックスで「目録(もくろく)」を奉読します。役面は鹿野の男の子なら一度はあこがれる祭りのスターといえます。



## ～祭礼が行われるまで～

祭礼は1月2日の若連中の初寄合いで始まり、3月15日の総集會、4月1日の御神事場調(ごじんじばしらべ)、4月10日宮掃除、4月13日屋台建て・締張り、4月14日宵祭り、4月15日本祭り、4月16日屋台とろきで終わります。

(近年は、準備などを日曜日、宵祭り・本祭りは4月中旬の土日に行われています)

# 宵祭り

(よいまつり)

日程 平成30年4月14日(土)

- 登山 PM6:00 榊・獅子など7町内が城山神社に集結します。
- 下山 PM7:30頃 神社で神事を行った後、榊を先頭に行列が下山。祭りのスタートです。
- 御旅所 PM10:00 行列は町内を練り歩き、翌日の行列の出発地点である紺屋町に集結。神事を行います。



御神体が一夜を過ごす御旅所(おたびし)での神事風景

## ～宵祭り(よいまつり)～

宵祭りは城山神社で御御輿に御神体を迎え神事を行った後、鍛冶町の高張提灯・太鼓・笛・榊、各町々の御供、上町の狸々・獅子(神楽獅子)、殿町の御神輿、神官、後供の順に下山します。



各町の宿(やど=祭り運営の拠点)には宵祭りの日に宿飾りといわれる屋台飾りがおかれます。

写真は以前の下町宿です。随神の衣装などが飾られ大変華やかです。



城山神社の鳥居前には各町から1人ずつ鳥居番(とりいばん)とよばれる番人が配置され、神社への出入りの監視にあたります。

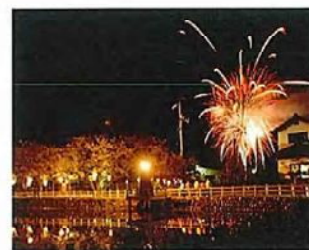


城山の上にある神社では、厳かに神事が執り行われます。お清めを行い、御御輿に御神体をむかえ、獅子舞が奉納されたあと、行列は下山を始めます。



鍛冶町の榊を先頭に行列は進みます。榊は左右に練りながら進むため、榊に近づき過ぎて押されて転ぶ見物人もいます。

## 祭りを彩る大花火



鹿野祭り「宵祭り」にあわせて、観光協会が約1000発の花火を打ち上げます。

日時 4月14日(土)午後8時頃～  
打上場所 城下町「大工町」南側



# 本祭り

(ほんまつり)

日程 平成30年4月15日(日)

**共揃い AM11:30** 榊・獅子など7町が出発地点の紺屋町に集結します。

**出発 AM12:00** 御神輿の前でお祓いを受けた後、榊を先頭に行列が出発します。

**御神事場到着 PM8:00** 大工町に行列が到着し、御神事場で神事を行います。

**目録の奉読 PM10:00頃** 行列は殿町に移動。年行事役面が代々伝えられてきた巻物「目録」をとうとうと読み上げ、各町順番に神社に向かいます。



## ～殿町(とのまち)～

殿町は宵祭りの夜、城山神社で御神体を御神輿に迎え下山。祭りの到来を告げるかのように町を練り歩きながら、御神体が一夜を明かす御旅所(おたびしょ=今年は大工町)を目指します。また本祭りの日は、屋台、轆轤など各町内に守られるかのようにして行列の最後方を進み、上町の獅子舞が奉納される御神事場を目指します。



## ～上町(かんまち)～

上町は「青龍(せいりゆう)」がシンボルの屋台、笛・太鼓の音色にあわせて舞う狸々・獅子が見ものです。屋台の屋根には女若(にわか)と呼ばれる化粧姿の若者が乗り、屋台の進行を仕切ります。また獅子は家々をまわりながら、その家に幸福が訪れるよう家の玄関先で舞い、最後は家の玄関の中に体を入れ幸福を招き入れます。この獅子に頭を噛まれた子供は賢くなるといわれています。

※他町屋台の屋根に乗った化粧姿の若者も同じく

## これだけは守りたい!

### 鹿野祭り観覧のルール

古式ゆかしい鹿野祭りは、住民が誇りをもって伝統を守り伝える「生きた」祭りです。生きた祭りであるがゆえに、祭りのルールを守らないと争いごとのもとになります。祭りを楽しくご覧いただくため、次のことには気をつけましょう。

#### ■轆轤指が進行中に行列を横切らない

昔侍の行列を横切ったものが刀で斬り捨てられたように、この行列を前から横切することは今なお禁じられています。

#### ■獅子舞中に前を横切らない

家々をまわる獅子舞…玄関先での獅子舞も神事です。玄関に向かって進む獅子の前を横切することは禁じられています。

#### ■行列を上から見下ろさない

祭礼行列を上から見下ろすことは禁じられています。(屋台などを2階などから眺める等)



## ～下町(しもまち)～

下町の屋台は「二軒門(にてんもん)」をシンボルとし、町内の威勢のいい若者により進行されます。屋台には着物姿に化粧をした可愛い子供「随神(ずいじん)」「慮匠(たかしじょう)」が乗り込み、屋台の上から愛嬌を振りまいています。

本祭り当日、下町宿(やど)から行列の共揃えにむけて行進する随神と慮匠、そして罪来隊は、さながら祇園祭りを彷彿とさせる優雅さをもっていきます。



## ～紺屋町(こんやまち)～

紺屋町は轆轤姿も美しい轆轤指(のぼりさし)が見ものです。右手に竹筒をもった隨武者が、ゆっくりと道を進みます。昔侍の行列を横切ったものが刀で斬り捨てられたように、この行列を前から横切るとは今なお禁じられています。(横切ると地元の方から怒られます)

※目録奉読の時間は過去の祭りを参考に示した目安です。祭りの進行状況により時間は変わりますのでご注意ください。

## ～本祭り(ほんまつり)～

祭りは、時には翌日の明け方まで続くこともあります。

加治町の太鼓・笛・榊、大工町の屋台「玄武」、紺屋町の轆轤指、山根町の屋台「朱雀」、下町の屋台「二軒門」、上町の太鼓・笛・獅子・狸々・屋台「青龍」、殿町の御神輿、神官、後供の順に行列が進行します。

華やかに、しかも情緒豊かに日本古来の祭りの良さを今なおにじませています。

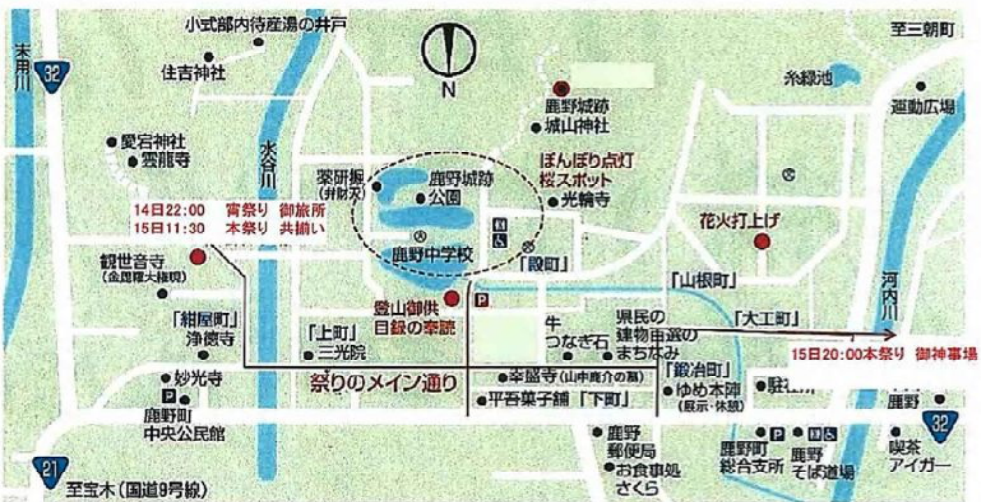
家々の門には、それぞれ家紋の入った提灯が並び、はおりはかまに正装した男たちがさんざめき、屋台のギンギンという音と笛の音が鳴り響きます。

## 鹿野祭り行列の順番・道程



(最後方)

(先頭)



行列は紺屋町を出発し、大工町を目指して進行します。屋台は大通りを進行し、榊や獅子、轆轤指などは横道にも入ってきます。



## ～鍛冶町(かじまち)～

加治町の若者は榊を担ぎ、太鼓と笛の音色にあわせて家々をまわります。その家に幸福が訪れるよう願い、家の前で「わっしょい、わっしょい」と榊を振り、白い半紙でつくられた「へり」のついた榊の枝をその家に納め、家では神棚にそれを祀り幸福を祈ります。昔は酔った勢いで民家の入口を壊してしまうというハプニングもあったそう、ときには荒々しい一面も見せます。



## ～山根町(やまねまち)～

山根町の屋台は「朱雀(すざく)」をシンボルとし、町内の威勢のいい若者により進行されます。この屋台には弓・鉄砲隊の衣装をまとい、帽子をかぶった可愛い子供「警護(けいご)」が乗っており、屋台の上から愛くるしい笑顔を振りまっています。

## ～大工町(だいこまち)～

大工町の屋台は「玄武(げんぶ)」をシンボルとし、町内の威勢のいい若者により進行されます。この屋台の中では大工町の若連中が屋台囃子(ばやし)の生演奏を行っており、祭りならではの笛の音色が楽しめます。

